



第 2 四 半 期 決 算 説 明 会

2011年(平成23年)11月18日

ネツレン

高周波熱錬株式会社

I 経営推移と今後の事業展開

II 第11次中期経営計画の実績と進捗状況

III 新商品・新技術の開発・新規事業の推進

IV 2012年(平成24年)3月期第2四半期 連結決算の概要

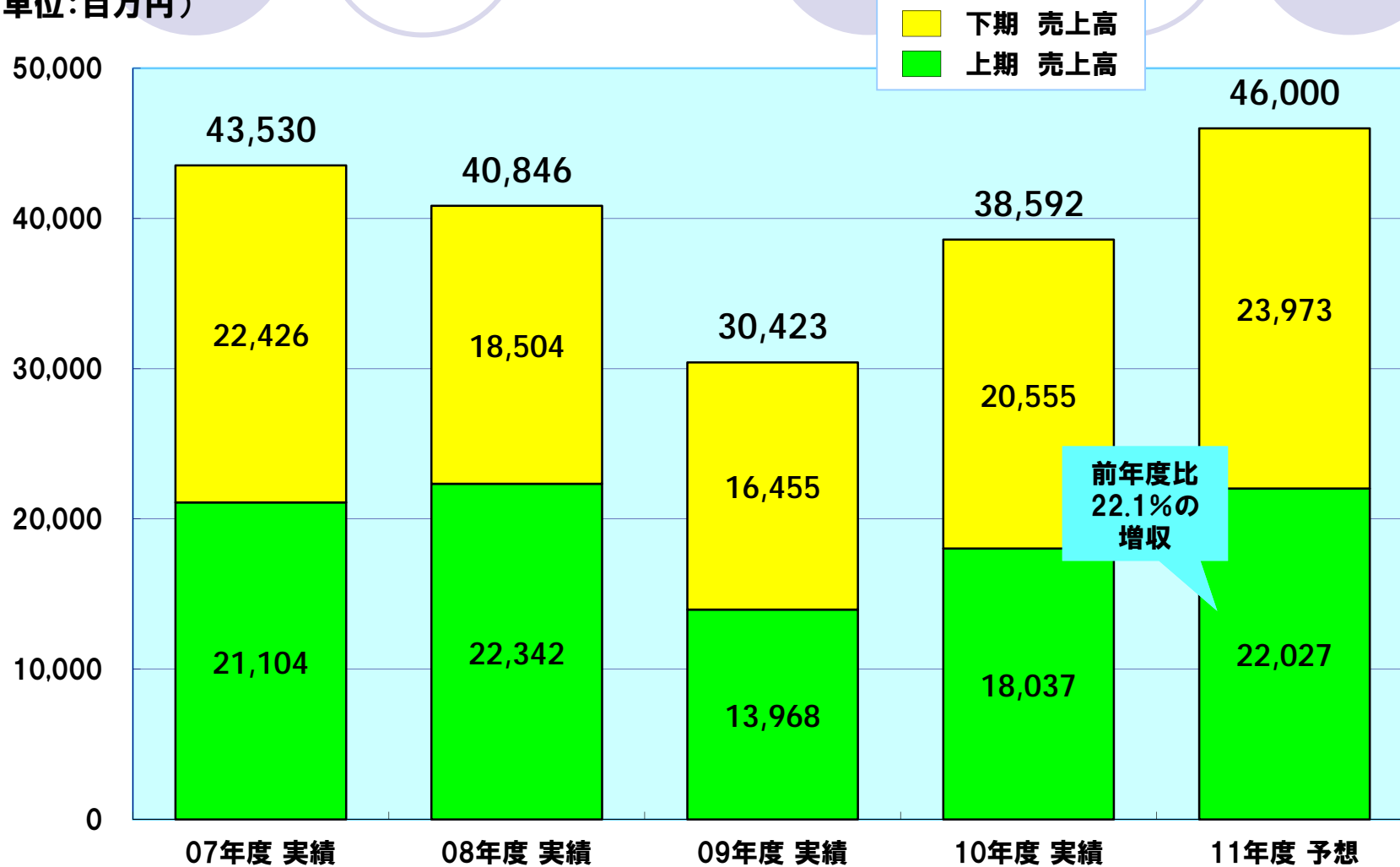
A decorative graphic consisting of five circles and a horizontal line. The circles are arranged in two rows: three in the top row and two in the bottom row. The top row has one white circle with a light purple outline on the left, and two solid light purple circles on the right. The bottom row has two solid light purple circles on the left, and one white circle with a light purple outline on the right. A thin green horizontal line runs across the middle of the circles, passing through the text.

I 経営推移と今後の事業展開

1

連結売上高

(単位:百万円)



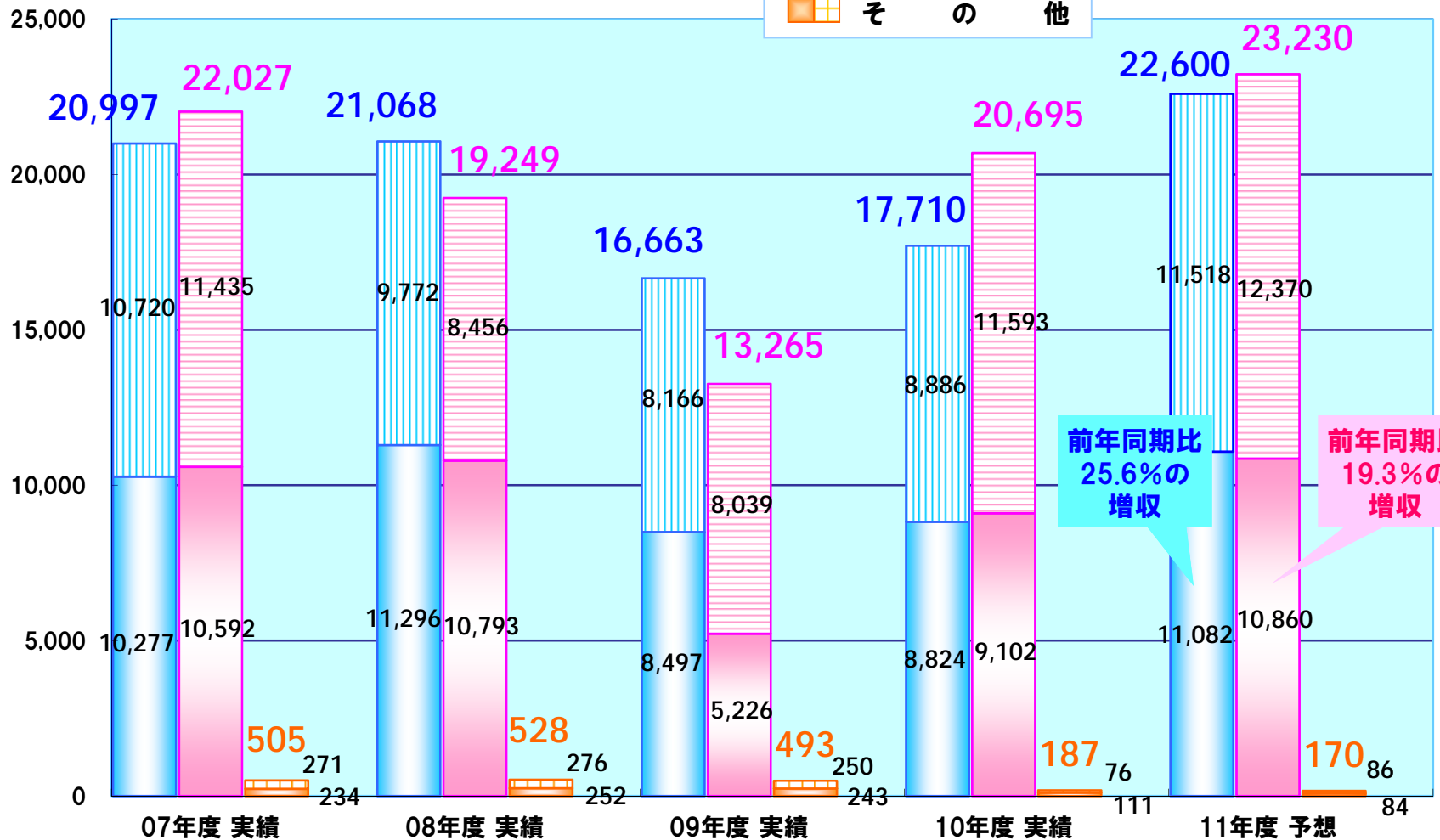
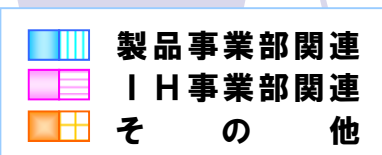
前年度比
22.1%の
増収

第11次中期経営計画

2

セグメント情報(連結売上高)

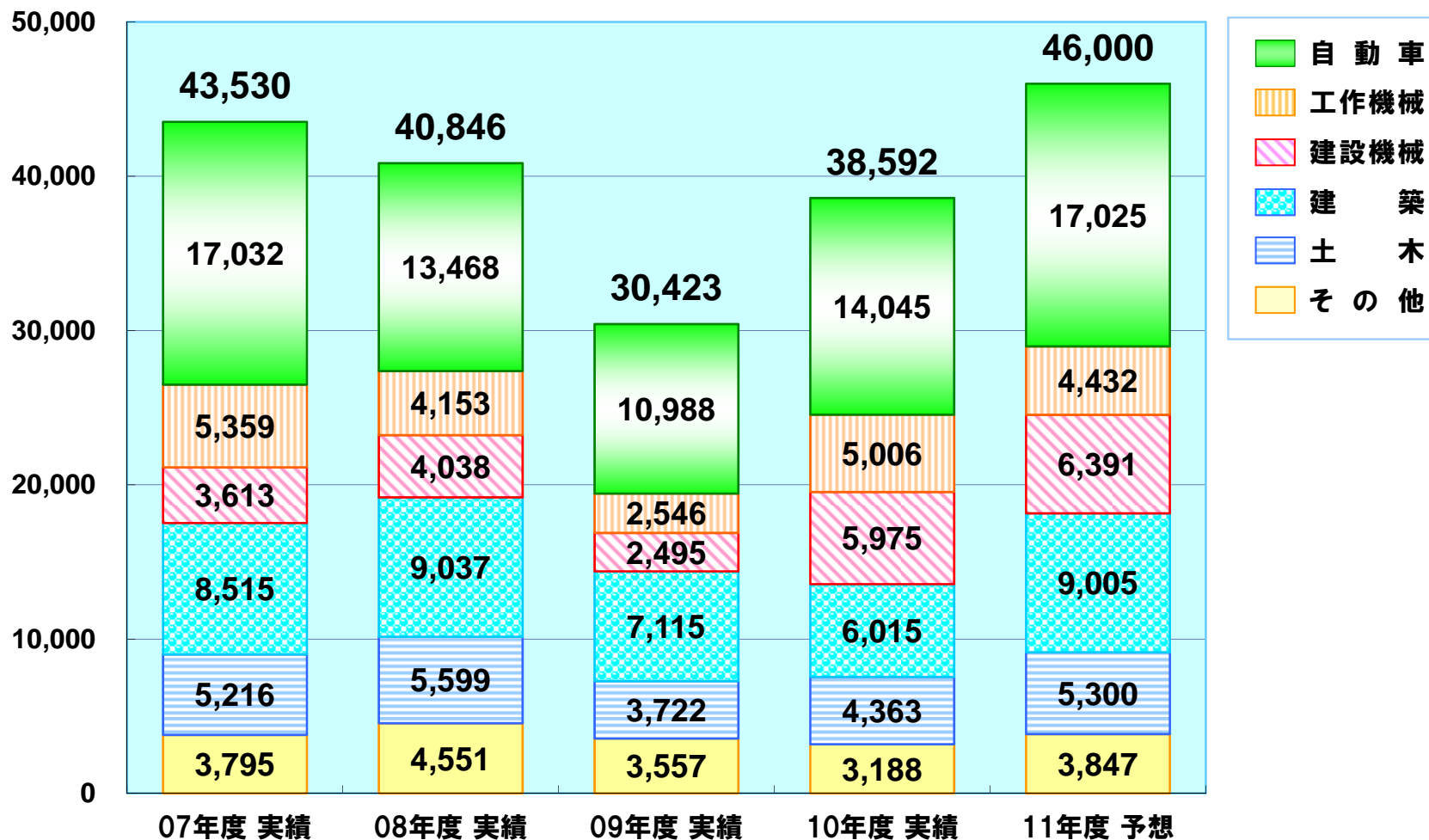
(単位:百万円)



3

業界別売上高

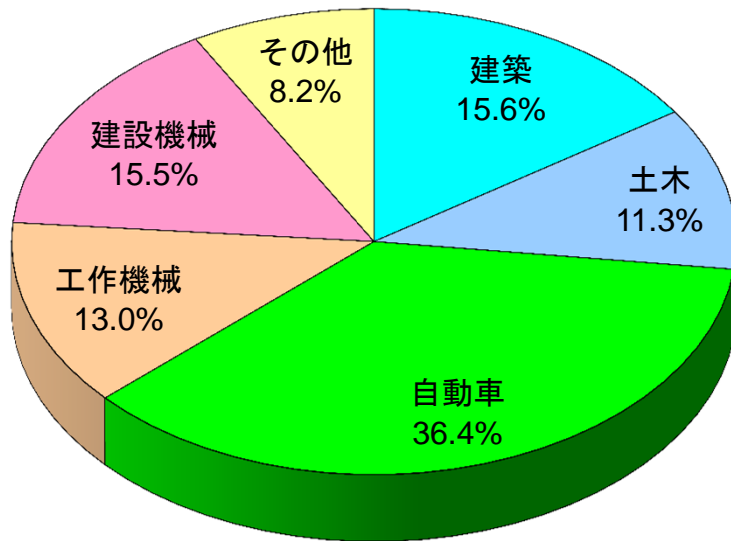
(単位:百万円)



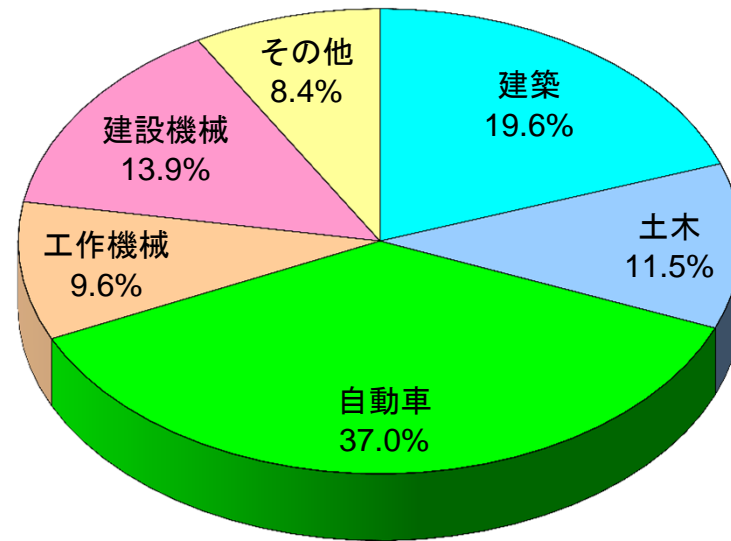
4

業界別売上高比率

2010年度実績



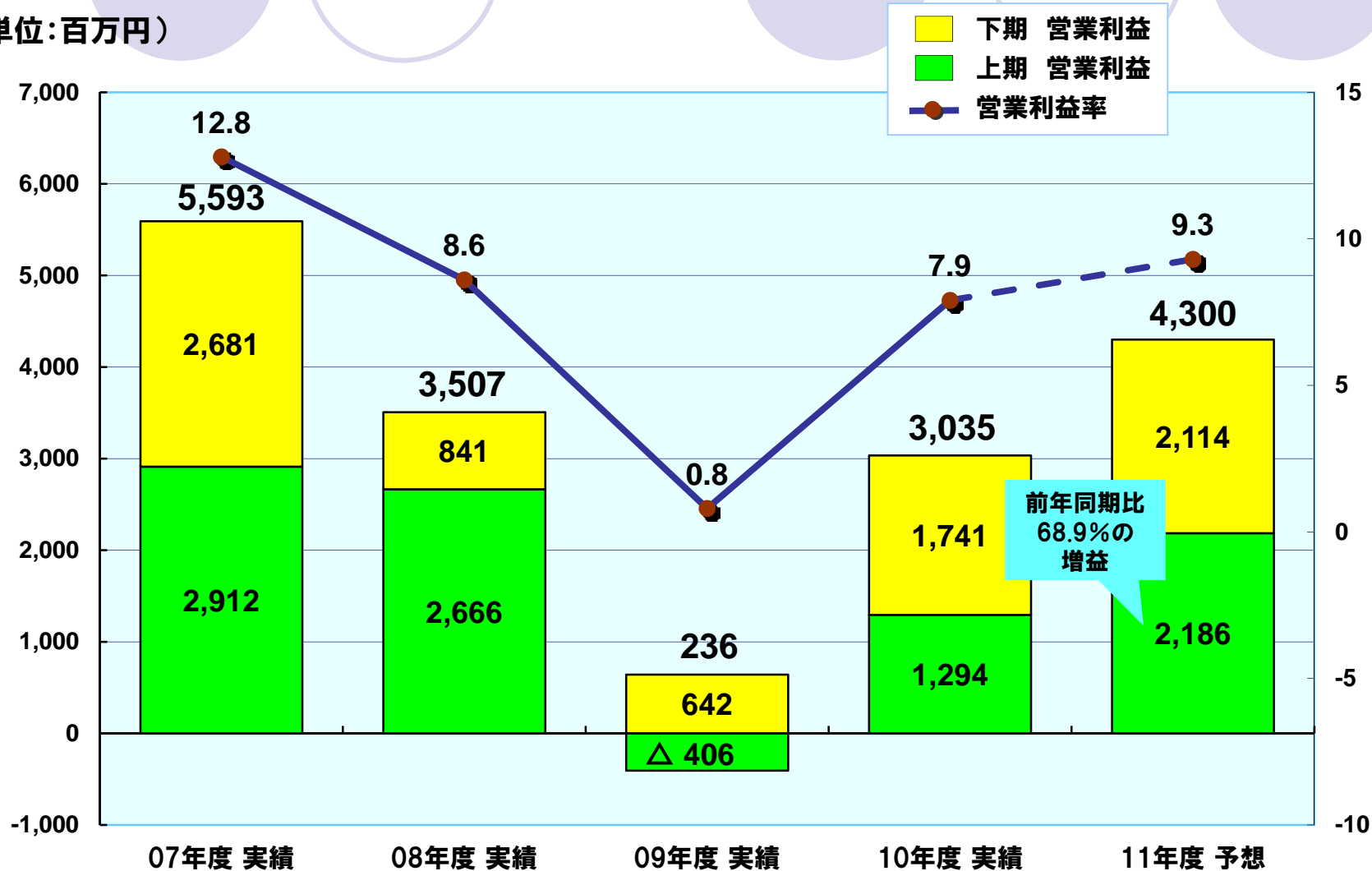
2011年度予想



5

営業利益・営業利益率

(単位:百万円)



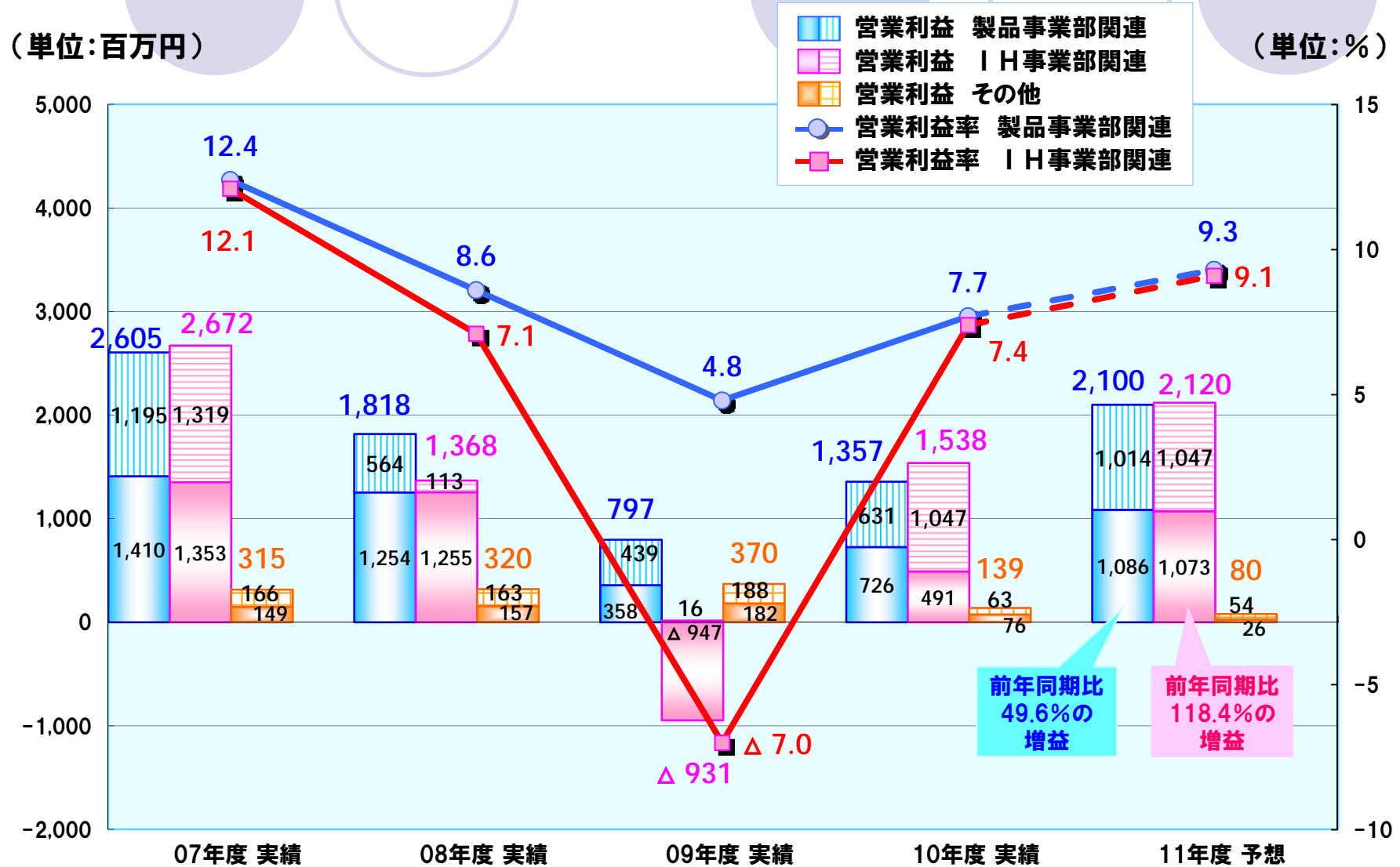
第11次中期経営計画

6

セグメント情報(営業利益・営業利益率)

(単位:百万円)

(単位:%)





Ⅱ 第11次中期経営計画の実績と進捗状況

7

第11次中期経営計画 「革新への挑戦と飛躍・65」

【中期経営方針】

1. 成長戦略の遂行
2. 事業基盤の強化
3. 高効率化の追求
4. 人財の確保と育成

【趣旨】

2012年3月期に連結の営業利益率10%以上を目標とし、ネットングループの企業価値の向上を目指す。

【連結経営目標】

	2012年3月期 目標
売上高	450億円以上
営業利益	45億円以上
営業利益率	10%以上
ROA(総資産経常利益率)	7%以上
ROE(株主資本純利益率)	6%以上

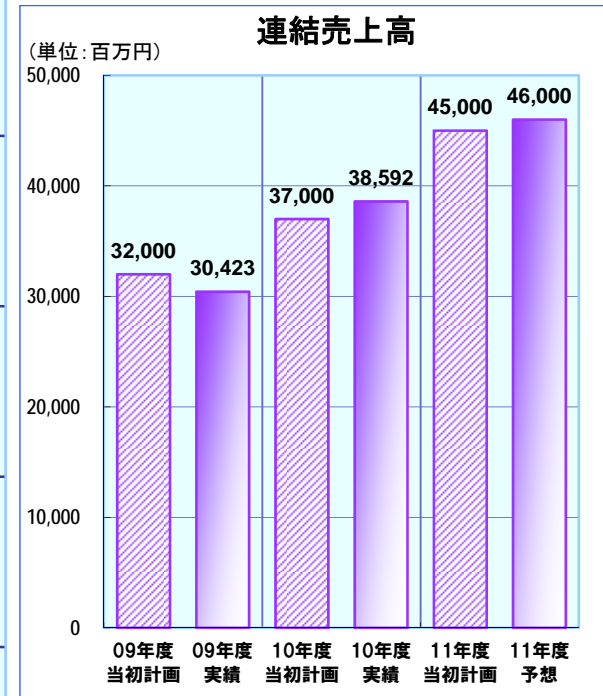
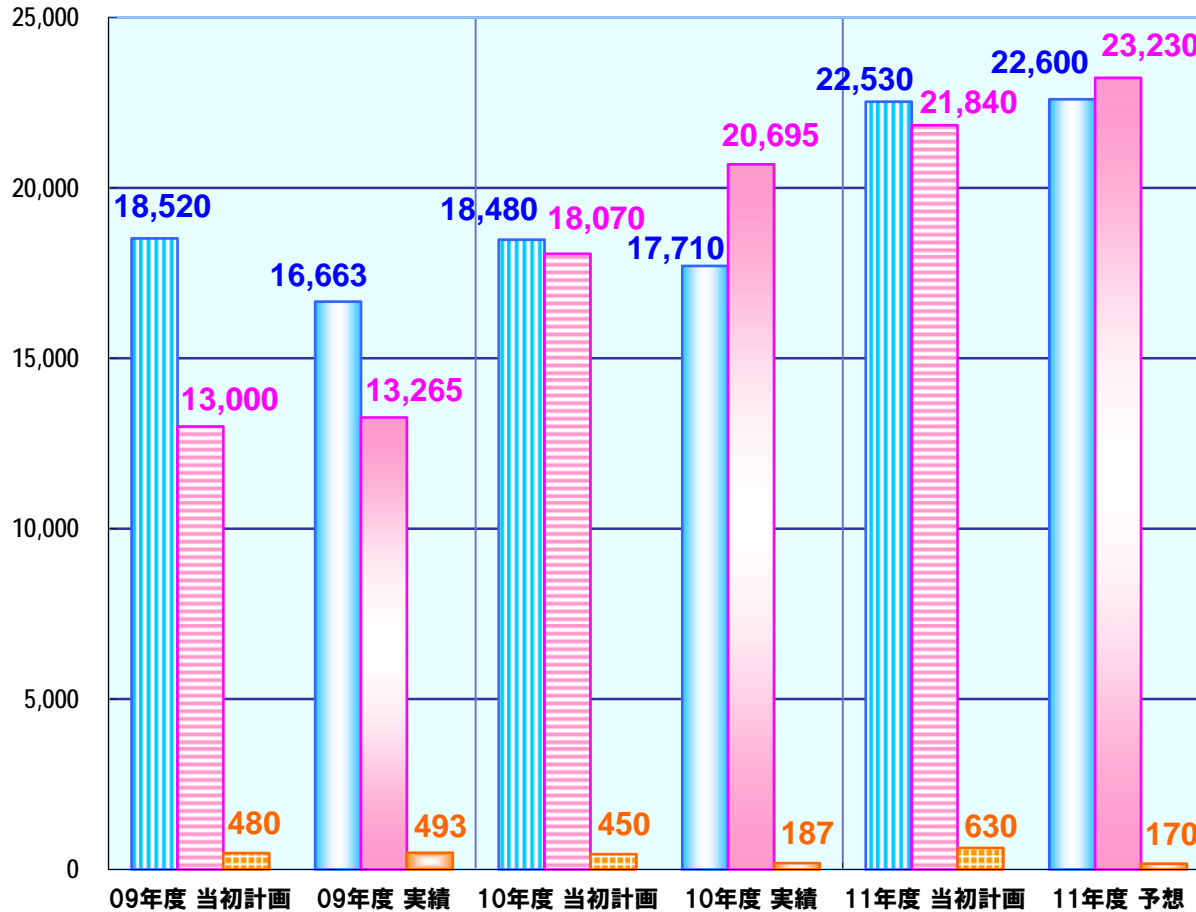
8

第11次中期経営計画の計画と実績(連結売上高)

(単位:百万円)



連結売上高 (セグメント別)



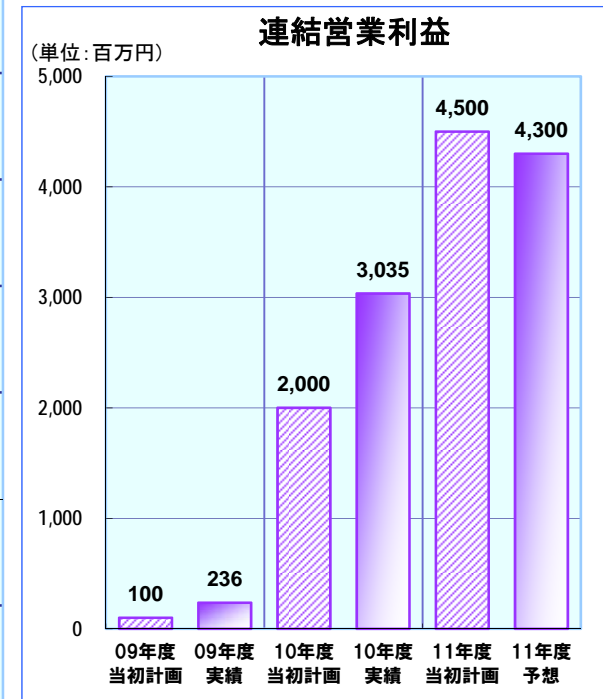
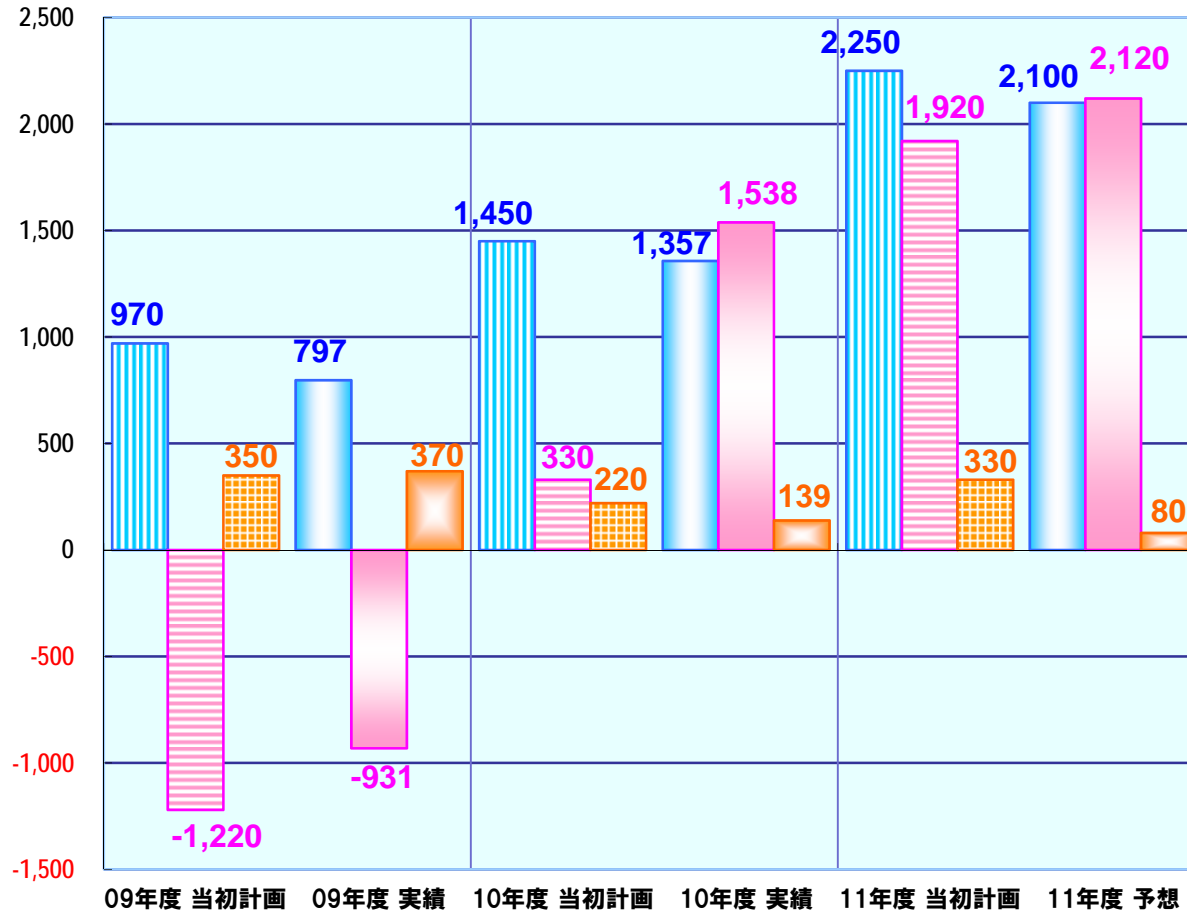
9

第11次中期経営計画の計画と実績(連結営業利益)

(単位:百万円)



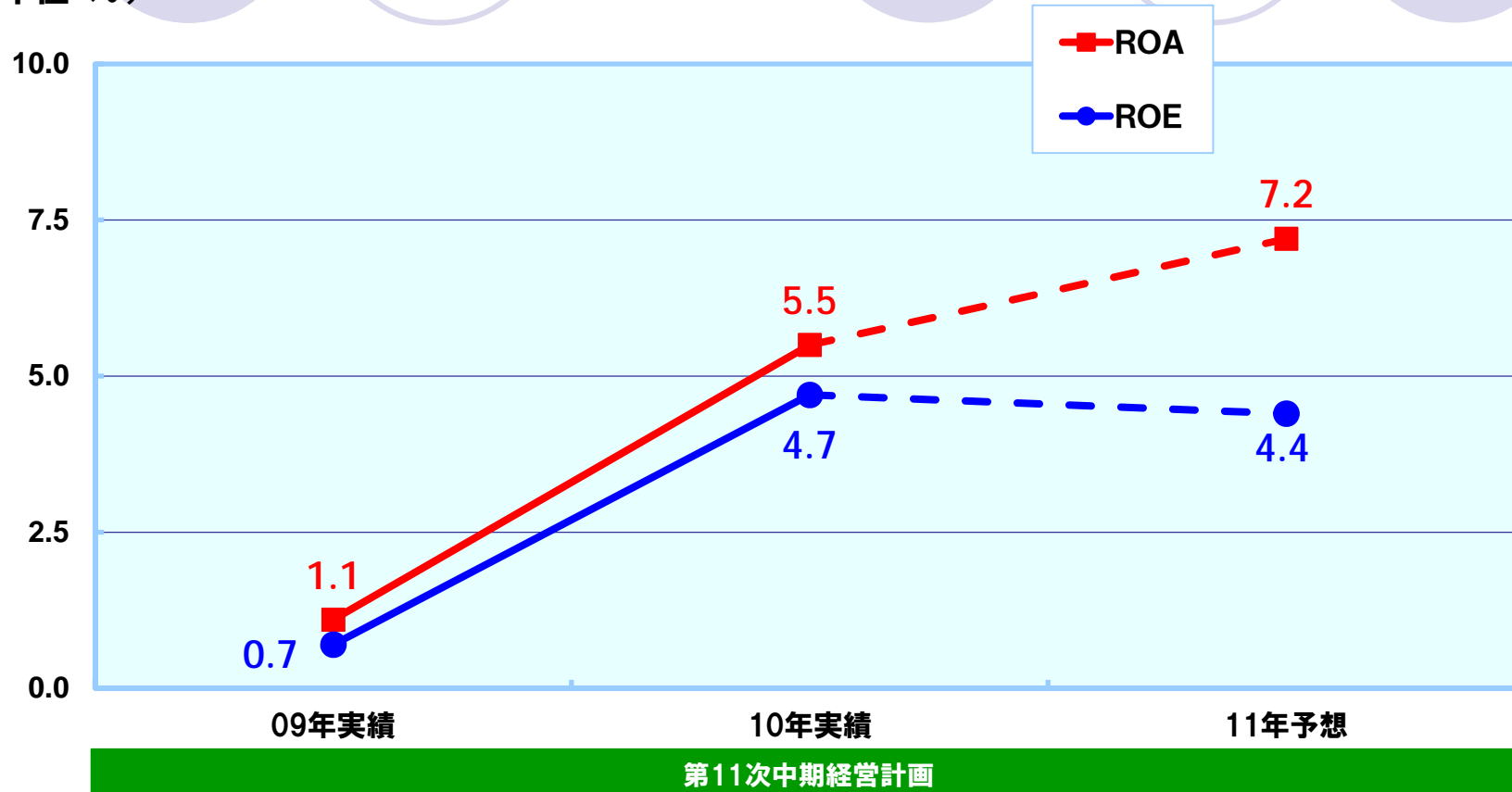
連結営業利益 (セグメント別)



10

ROA・ROE

(単位:%)



【11年予想の算定方法】

総資産、純資産： (前期末数値+当第2四半期末数値)/2
経常利益、当期純利益： 直近の公表数値

A decorative graphic consisting of five circles arranged in a horizontal line. The top row contains three circles: an empty circle with a light purple outline, a solid light purple circle, and another solid light purple circle. The bottom row contains two solid light purple circles and one empty circle with a light purple outline. A thin green horizontal line passes through the center of the circles, intersecting the text.

Ⅲ 新商品・新技術の開発・新規事業の推進

新評定による高強度せん断補強筋1275(ウルボン)の建築分野および土木分野への拡販

●ウルボン1275新設計のメリット

対象建物 … ①最もコストメリットを発揮するのは10～20階(30m～60m)の高層RC

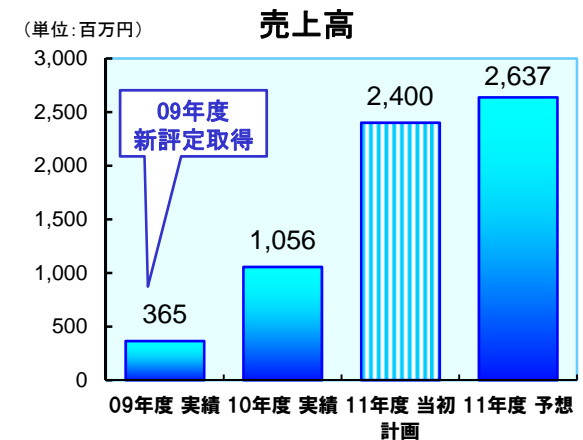
経済設計 … ①建築における梁・柱の補強筋量を高強度せん断補強筋785に比べ30%以上の削減が可能

… ②土木における鉄道高架橋柱の補強量を高強度せん断補強筋785に比べ大幅に削減が可能

施工・品質アップ … ①過密配筋の解消で鉄筋取付施工(工期)の向上とコンクリートの流動性がアップ



高強度せん断補強筋1275

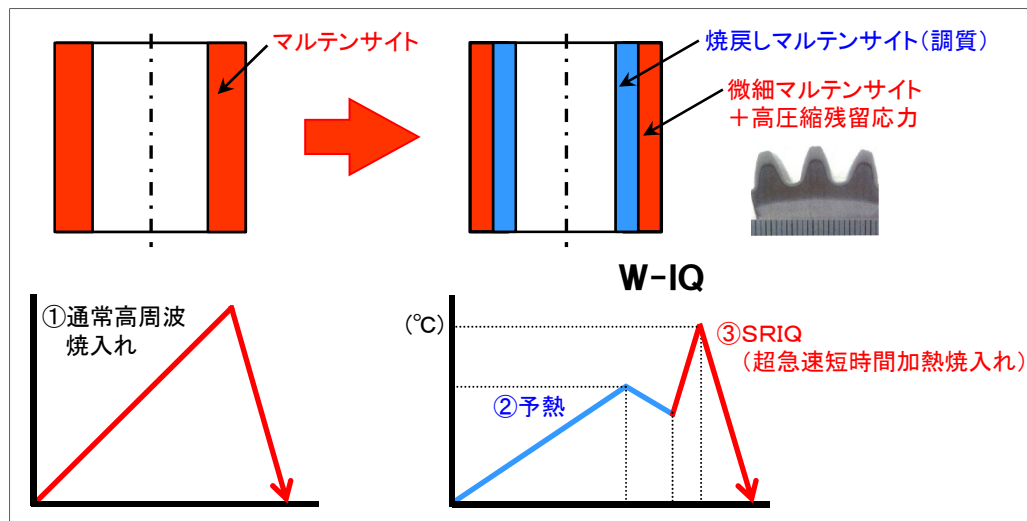


二重硬化層焼入れ“W-IQ”による高強度化の開発

1. 高周波焼入材

優れた疲労強度とW-低変形であるが、短時間加熱ゆえ前組織の影響を受けやすい

2. 二重硬化層焼入れ“W-IQ”の開発



インラインで調質実施

- ・微細結晶粒
- ・高素地硬さ
- ・高圧縮残留応力

高疲労強度、高靱性

3. 期待効果

高周波による調質 + SRIQ ⇒ “前工程の機械加工性を阻害することなく、高い曲げ強度と高い疲労強度を付与できる”

加工熱処理による高強度鋼線の開発

高強度棒鋼線

省資源、低コスト化の観点から現行材のさらなる高強度化、耐久性向上



対策

加工熱処理

焼入れ直前に強い圧延加工を加えることによって加工方向に伸びた組織が得られ従来の焼入れ・焼戻し以上に高い強度と延性・靱性が両立できる。



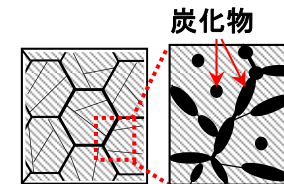
インライン圧延装置 + 熱処理技術 = さらなる強度・耐久性アップ

・PC鋼棒 ・ばね鋼線 ・各種鋼線材

【一般焼入焼戻材】

高強度化により犠牲となる特性

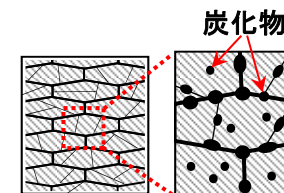
- ・伸び、絞り、靱性
- ・耐遅れ破壊性



対策後

【加工熱処理材】

- ・旧 γ 粒径の伸長
- ・炭化物が均一に分散しやすい

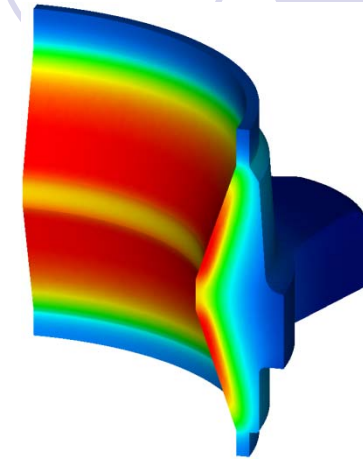


高周波熱処理シミュレーション技術の応用

1. 熱処理事業を支えるシミュレーション技術

【ねらい】

- (1) 試作回数の低減や開発・設計期間の短縮
- (2) 熱処理変形など品質向上のための最適な熱処理条件設定
- (3) 熱処理不具合の事前回避



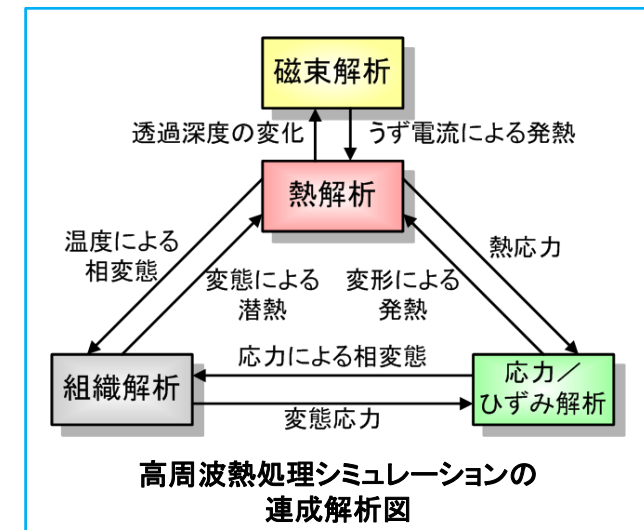
焼入時の部品断面の温度分布

2. シミュレーション手法

磁場と熱処理（熱-組織-応力／ひずみ）の連成解析による高精度なシミュレーション・システム

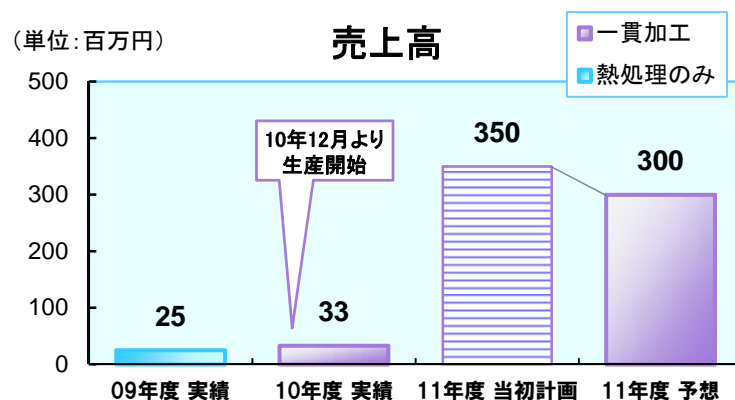
3. シミュレーション解析結果

- | | |
|------------|--------|
| ① 温度分布 | ② 電流分布 |
| ③ 組織分布 | ④ 硬さ分布 |
| ⑤ 応力／ひずみ分布 | ⑥ 変形量 |



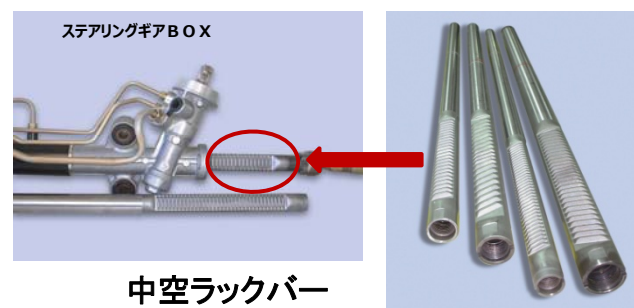
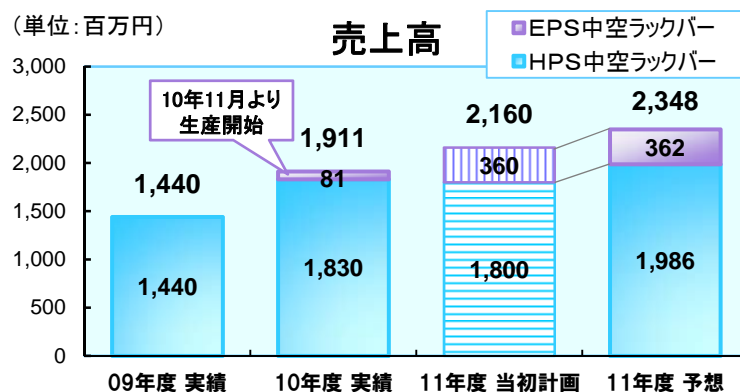
1. フロントフォークインナーチューブの加工・熱処理一貫加工の事業化の推進

“フロントフォークインナーチューブの量産体制の確立”（機械加工・熱処理・メッキの一貫加工）



2. 電動パワーステアリング用中空ラックバーの事業化

“電動パワーステアリング用中空ラックバーのグローバル販売展開”



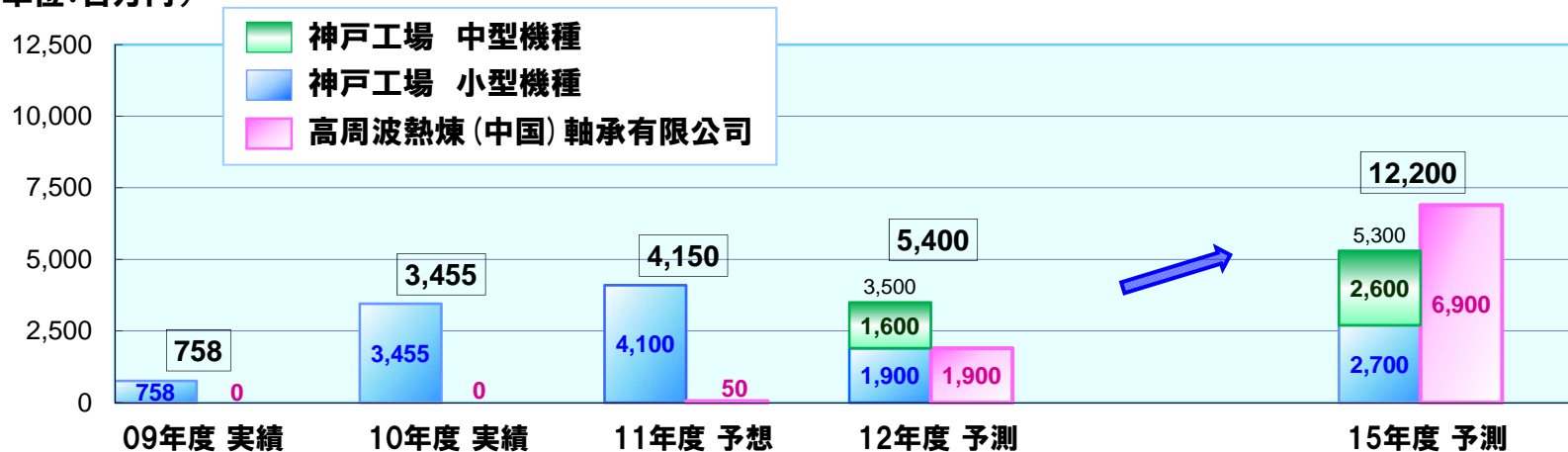
※ EPS: 電動パワーステアリング
HPS: 油圧パワーステアリング

旋回輪一貫加工の推進

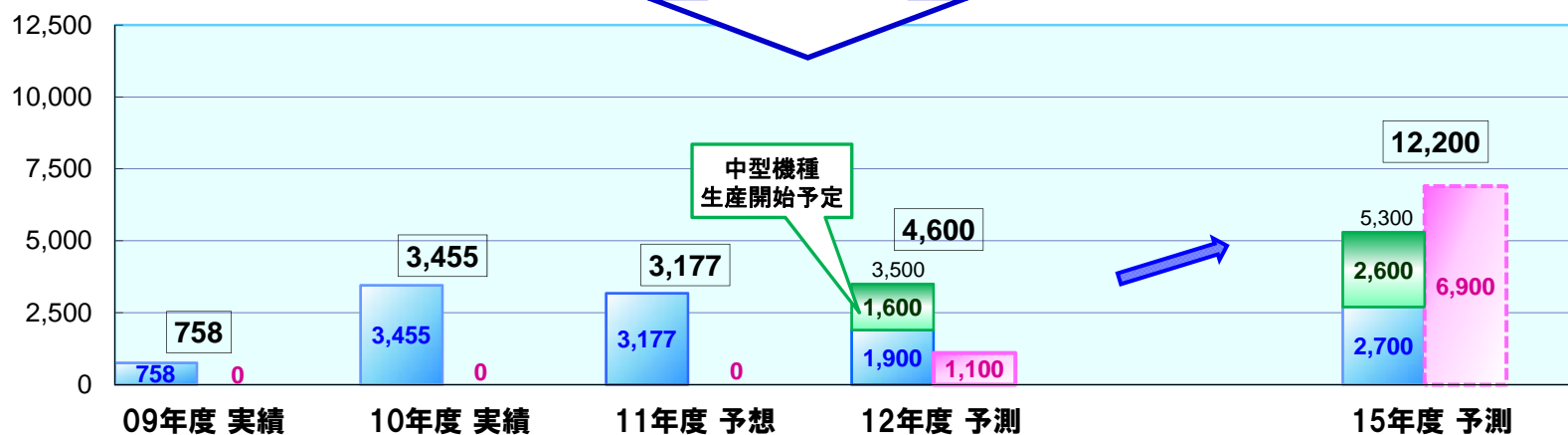
“2011年12月より中国新会社稼働”

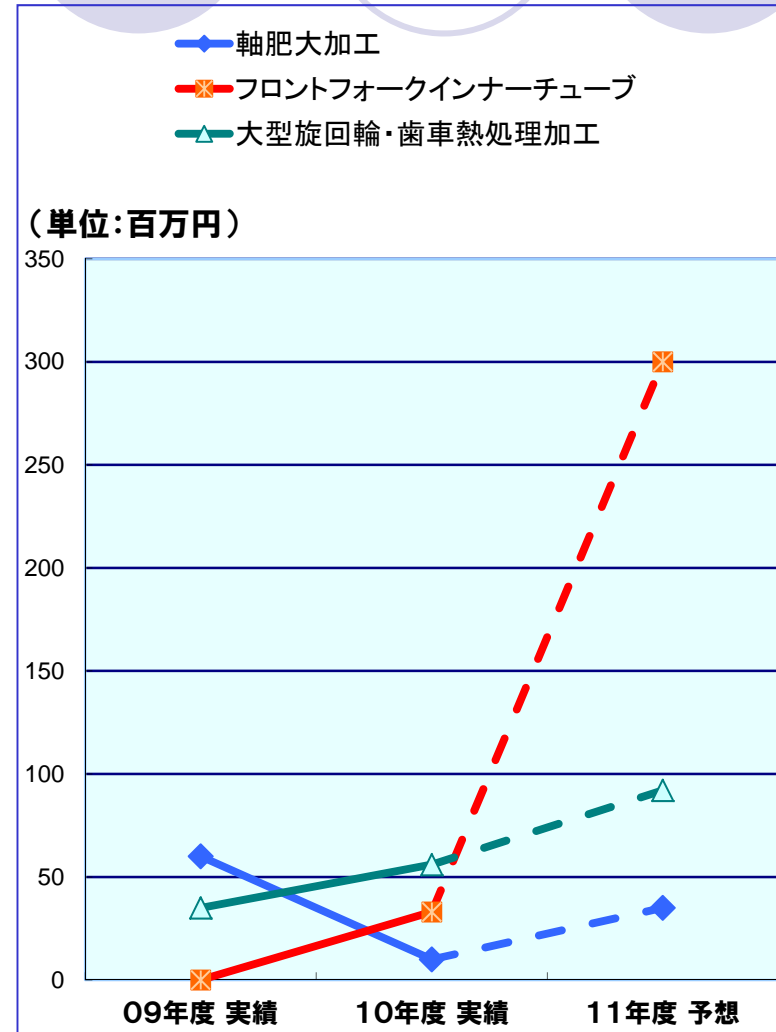
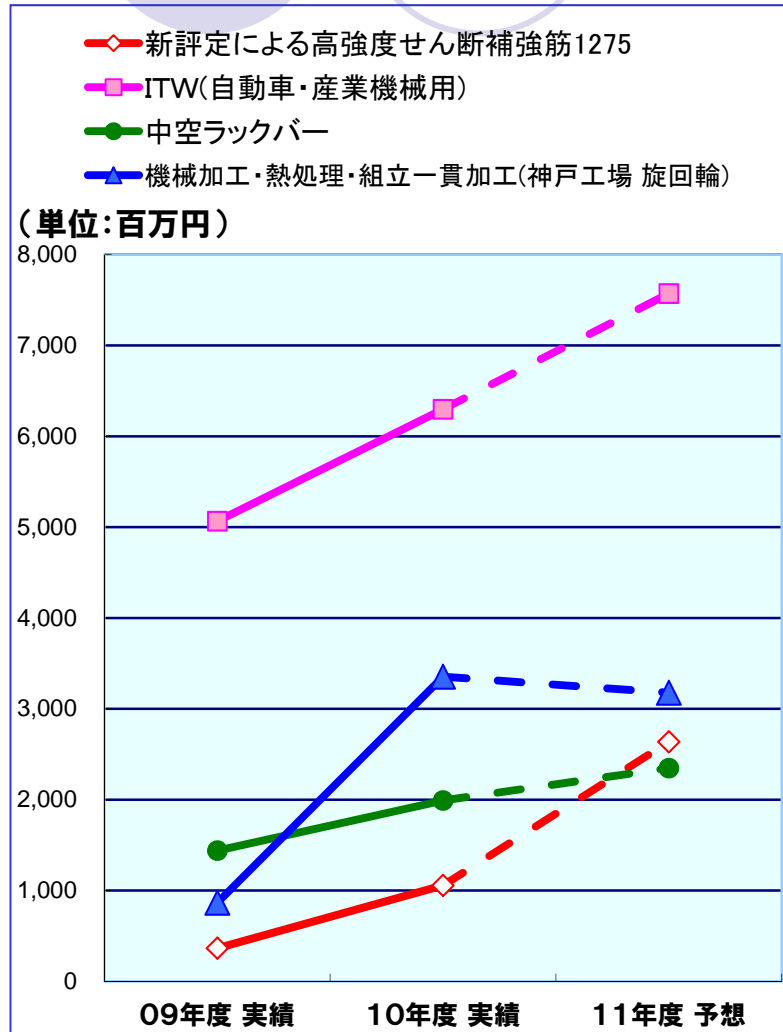
(高周波熱煉(中国)軸承有限公司)

(単位:百万円)



計画見直し

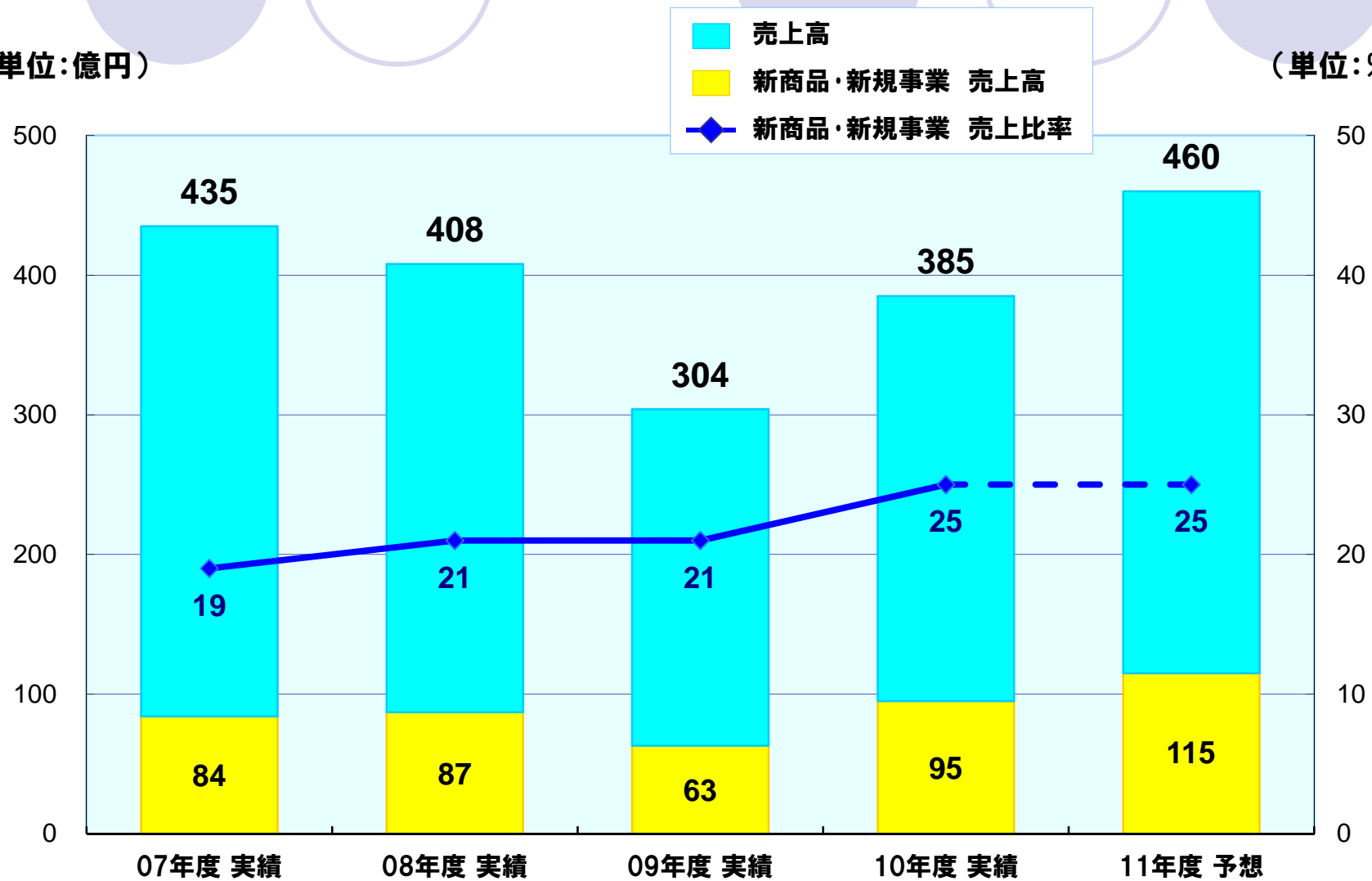




新商品・新規事業売上高

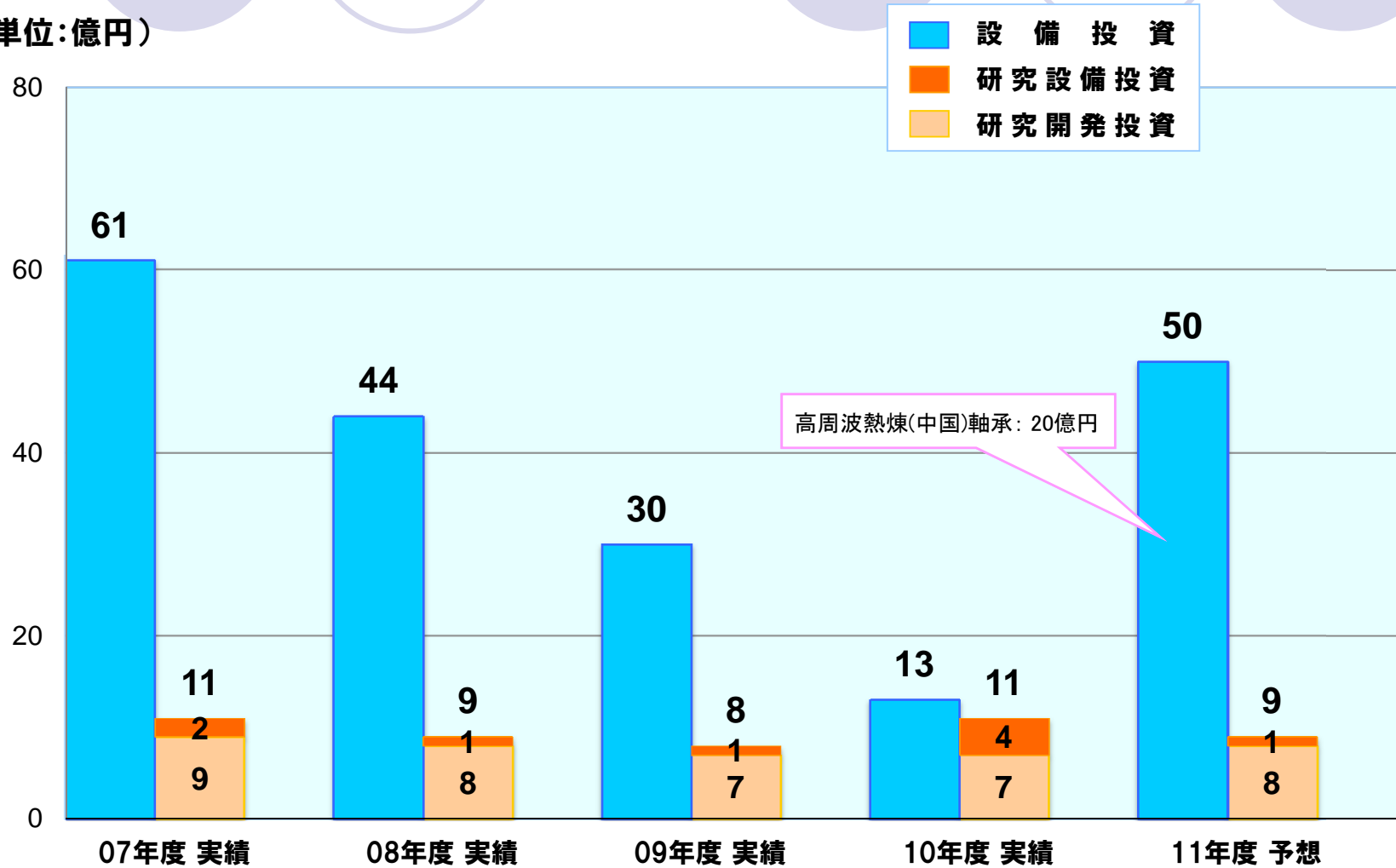
(単位:億円)

(単位:%)



設備投資・研究開発投資

(単位:億円)



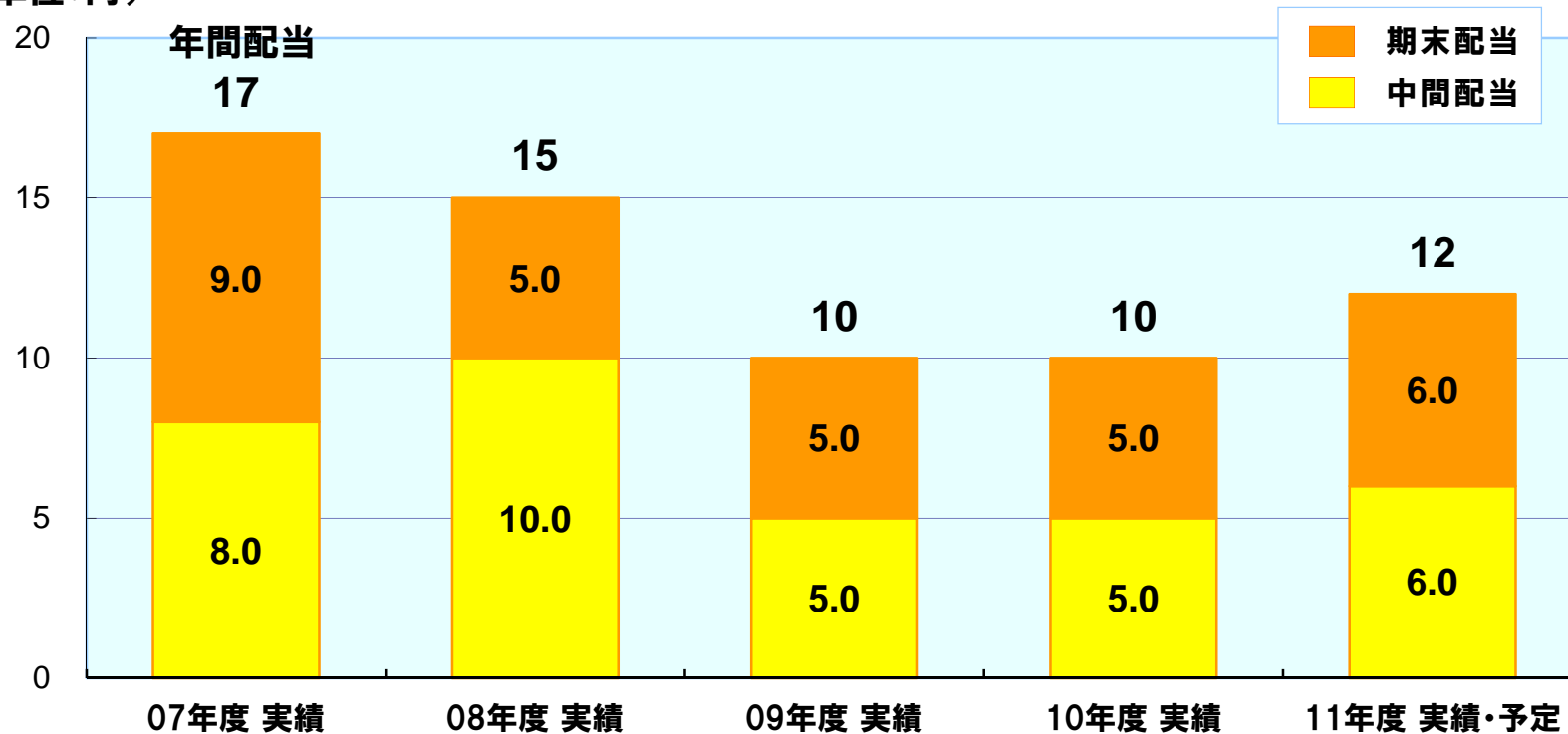
基本方針

基本的には、安定した配当を継続していくという方針に加え、業績に応じた利益配分を行うこととし、当社グループを取り巻く経営環境および財務の状況等を勘案のうえ、決定していくことを基本方針としています。

なお、原則として、「安定した配当」については、当面、年10円を下限とし、また、「業績に応じた利益配分」については、連結配当性向25%以上を目処としています。

(2011年10月13日公表)

(単位:円)





IV 2012年(平成24年)3月期第2四半期 連結決算の概要

1. 売上高は、東日本大震災の影響等もあったものの、関連業界からの受注量が回復し、22,027百万円と前年同期比22.1%の増収、営業利益は、増収効果等により、2,186百万円と前年同期比68.9%の増益となった。

2. セグメント別

(1) 製品事業部関連事業

売上高は、高強度せん断補強筋の受注が増加し、また、高強度ばね鋼線(ITW)の中国での販売が比較的堅調であり、11,082百万円と前年同期比25.6%の増収、営業利益は、1,086百万円と前年同期比49.6%の増益となった。

(2) IH事業部関連事業

熱処理受託加工・自動車部品・誘導加熱装置関連では、東日本大震災の影響等により、一時的な落ち込みがあったが、後半になって受注量が回復した。建設機械部品関連では、中国の景気減速等の影響で受注が伸び悩んだが、前年同期並みの売上を確保した。この結果、売上高は、10,860百万円と前年同期比19.3%の増収、営業利益は、1,073百万円と前年同期比118.4%の増益となった。

(3) その他

売上高は、前連結会計年度において、賃貸用オフィス1フロアを売却したことなどにより、84百万円と前年同期比24.3%の減収、営業利益は、26百万円と前年同期比65.4%の減益となった。

3. 第2四半期(単独期間)は、前年同期比および第1四半期比で、ともに増収増益となった。
4. 厳しい経営環境のもと、フリーキャッシュ・フローの黒字、実質的な無借金経営、高い自己資本比率など、健全かつ強固な財務体質を維持している。

(単位:百万円)

	2010年 9月期	2011年 9月期	増 減	増減率(%)	2011年 3月期
売 上 高	18,037	22,027	3,990	22.1	38,592
営 業 利 益	1,294	2,186	892	68.9	3,035
経 常 利 益	1,466	2,326	860	58.7	3,439
四半期(当期)純利益	908	1,201	293	32.2	2,201

2011年3月期第2四半期 連結決算(単独期間)の要点(4)

(単位:百万円)

	2011年 3月期	2012年 3月期	2012年 3月期	前年度同期比		前四半期比	
	第2四半期	第1四半期	第2四半期	増減額	増減率(%)	増減額	増減率(%)
製品事業部関連事業	4,437	5,414	5,668	1,230	27.7	253	4.7
IH事業部関連事業	4,918	4,748	6,111	1,193	24.3	1,363	28.7
その他	40	40	43	2	6.4	2	5.8
売上高	9,396	10,204	11,823	2,426	25.8	1,619	15.9
製品事業部関連事業	422	489	596	174	41.3	106	21.7
IH事業部関連事業	344	384	689	344	99.8	305	79.5
その他	34	2	24	△9	△28.8	22	-
営業利益	801	876	1,310	508	63.5	433	49.5
経常利益	806	943	1,383	576	71.5	440	46.7
四半期純利益	521	346	855	333	63.9	508	146.8

(単位:百万円)

事業区分	主な製品	2010年 9月期	2011年 9月期	増 減	増減率(%)	2011年 3月期
製品事業部 関連事業	PC鋼棒 異形PC鋼棒 高強度せん断補強筋 高強度ばね鋼線	8,824	11,082	2,258	25.6	17,710
I H事業部 関連事業	熱処理受託加工 誘導加熱装置 自動車部品 建設機械部品	9,102	10,860	1,758	19.3	20,695
そ の 他	動産ならびに不動産に 係る賃貸事業および 上記以外の事業	111	84	△ 27	△ 24.3	187
合 計		18,037	22,027	3,990	22.1	38,592

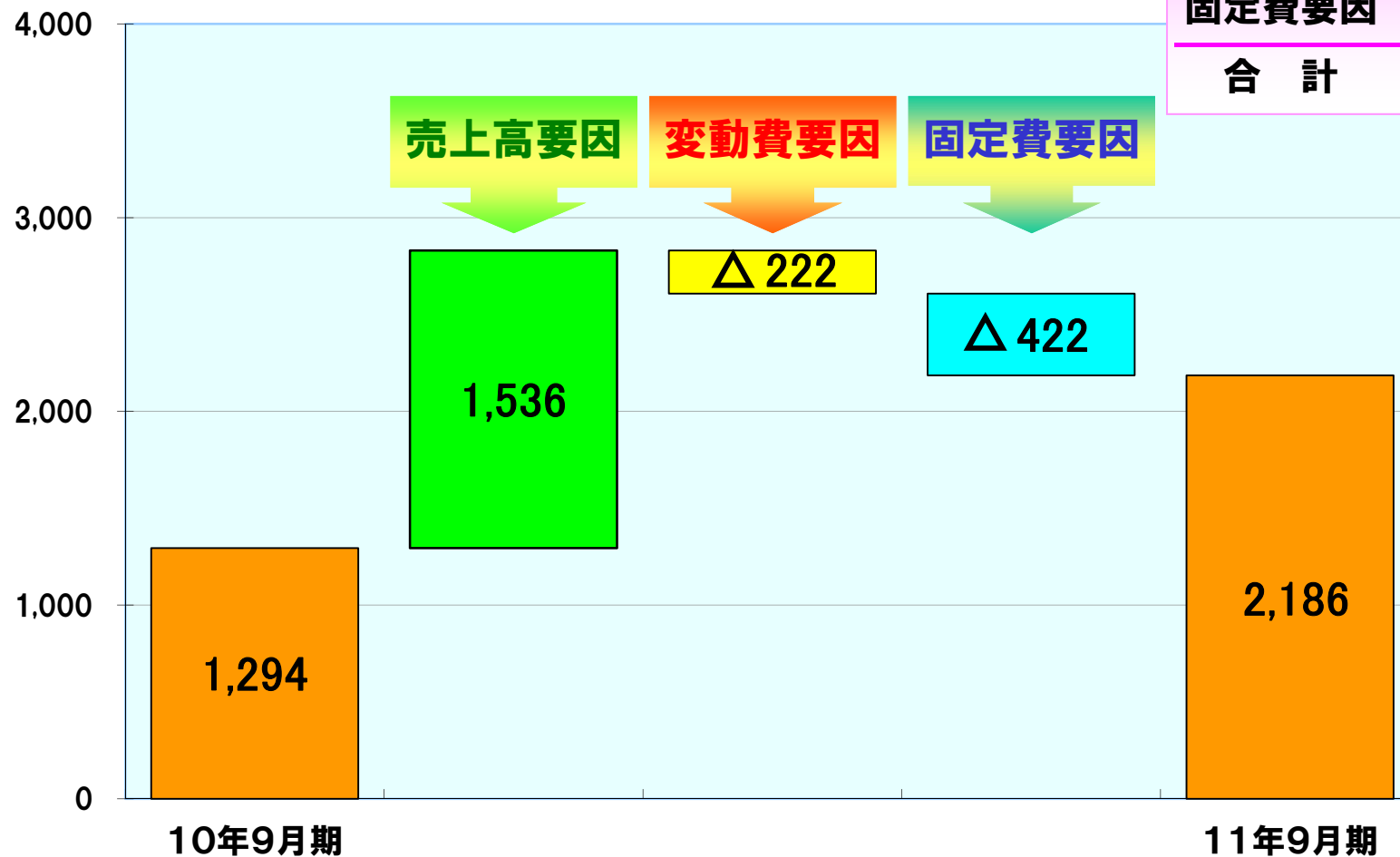
(単位:百万円)

事業区分	主な製品	2010年 9月期	2011年 9月期	増 減	増減率(%)	2011年 3月期
製品事業部 関連事業	PC鋼棒 異形PC鋼棒 高強度せん断補強筋 高強度ばね鋼線	726	1,086	360	49.6	1,357
I H事業部 関連事業	熱処理受託加工 誘導加熱装置 自動車部品 建設機械部品	491	1,073	582	118.4	1,538
そ の 他	動産ならびに不動産に 係る賃貸事業および 上記以外の事業	76	26	△ 50	△ 65.4	139
合 計		1,294	2,186	892	68.9	3,035

27

連結営業利益増減内容

(単位:百万円)



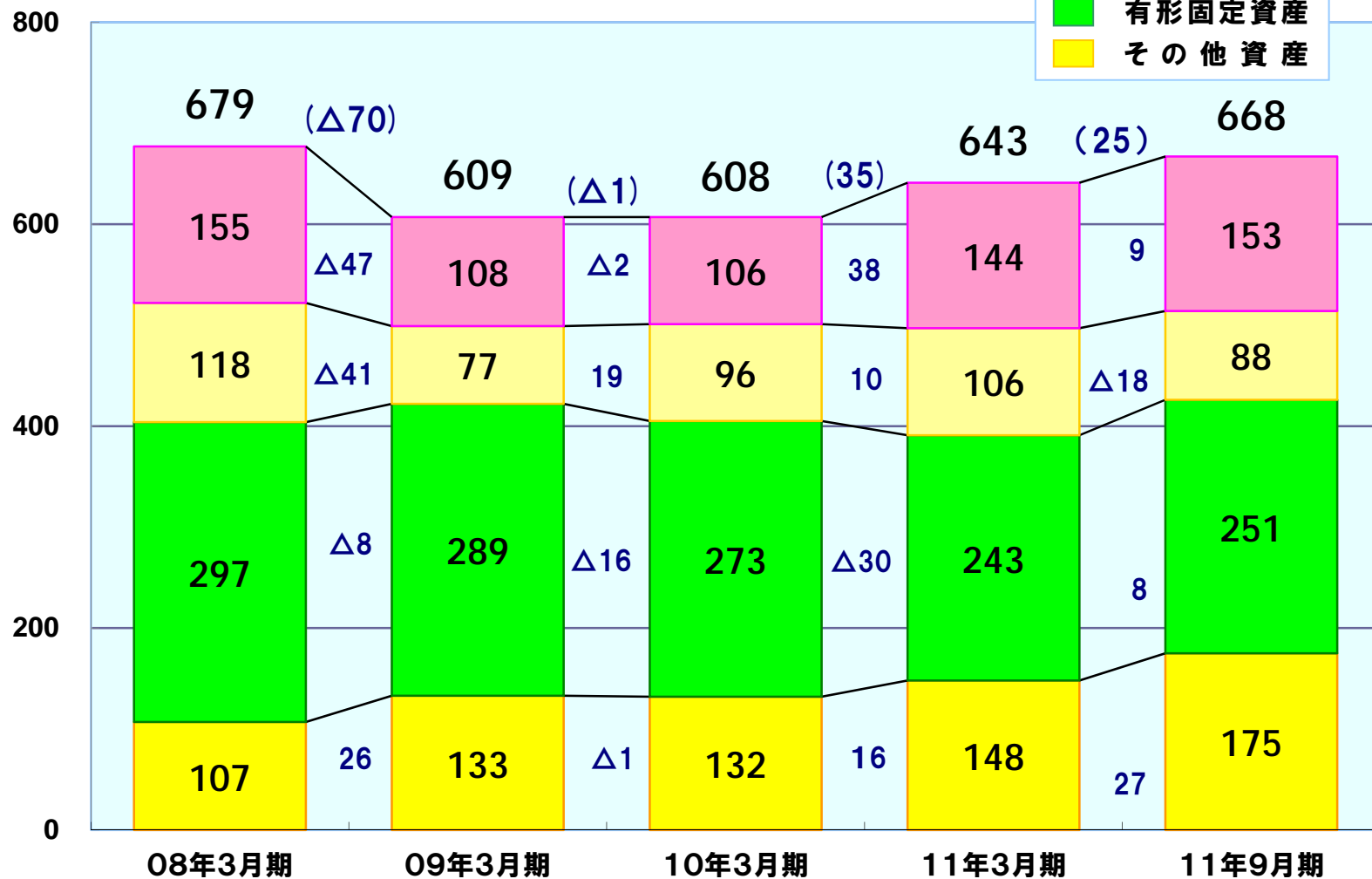
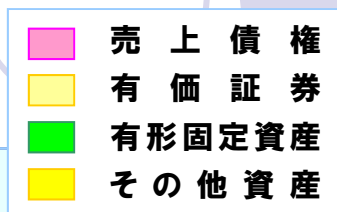
売上高要因	1,536
変動費要因	△ 222
固定費要因	△ 422
合計	892

(単位:百万円)

科目	期別	2010年 9月期	2011年 9月期	増減	増減率(%)	2011年 3月期
売上高		18,037	22,027	3,990	22.1	38,592
売上原価		14,171	16,897	2,726	19.2	30,336
売上総利益		3,865	5,129	1,264	32.7	8,256
販売費及び一般管理費		2,571	2,943	372	14.5	5,221
営業利益		1,294	2,186	892	68.9	3,035
営業外収益		335	294	△ 41	△ 12.2	633
営業外費用		163	154	△ 9	△ 5.5	229
経常利益		1,466	2,326	860	58.7	3,439
特別利益		429	9	△ 420	△ 97.9	666
特別損失		314	332	18	5.7	297
税金等調整前当期純利益		1,581	2,003	422	26.7	3,807
法人税、住民税及び事業税		597	692	95	15.9	1,567
法人税等調整額		-	-	-	-	△ 137
少数株主損益		75	108	33	-	176
四半期(当期)純利益		908	1,201	293	32.2	2,201

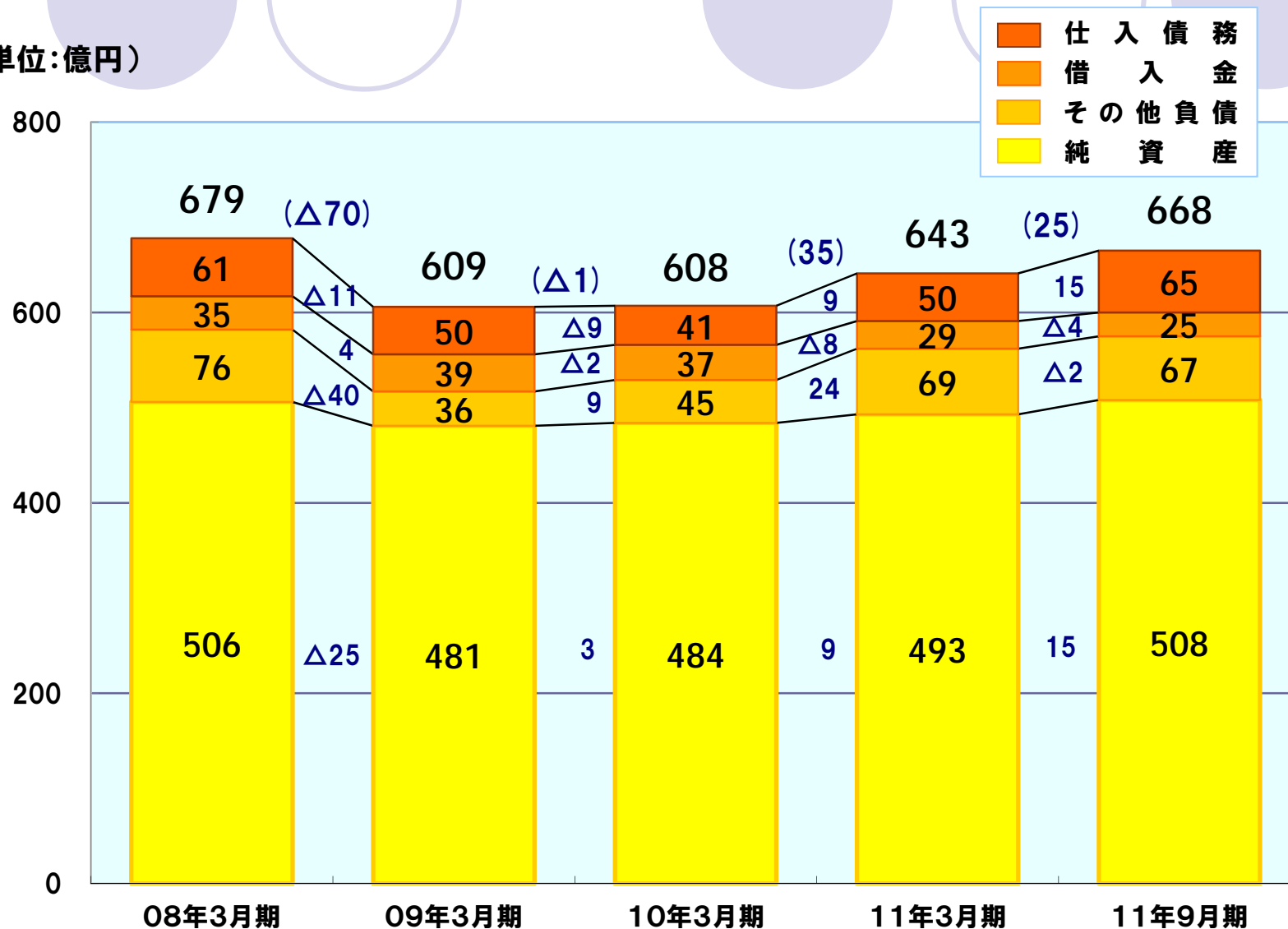
2012年3月期第2四半期 資産残高の推移(連結)

(単位:億円)



2012年3月期第2四半期 負債・純資産残高の推移(連結)

(単位:億円)



2012年3月期第2四半期 キャッシュ・フロー(連結)

(単位:百万円)

科 目	2010年 9月期	2011年 9月期	対前年同期比 増 減	2011年 3月期
税金等調整前四半期(当期)純利益	1,581	2,003	421	3,807
減価償却費	1,376	1,226	△149	2,774
売上債権の増減	△ 589	△868	△278	△3,877
仕入債務の増減	1,138	1,487	348	982
その他	△ 326	△1,786	△1,460	27
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,180	2,062	△1,118	3,714
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 826	△1,099	△273	△63
フリーキャッシュ・フロー	2,354	962	△1,392	3,650
借入金	△ 211	△352	△142	△654
自己株式の取得	△ 0	△ 0	0	△284
配当金の支払額	△ 215	△213	1	△430
その他	△ 33	112	146	△48
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 459	△453	5	△1,418
キャッシュ・フロー期末残高	9,168	10,971	1,803	9,493

1. わが国経済は不透明な状況が継続すると見込まれるが、関連業界からの堅調な受注を受け、売上高は、46,000百万円と前年同期比19.2%の増収、また、営業利益は、増収効果に加え、聖域なきコストダウンの継続などにより、4,300百万円と前年同期比41.6%の増益を見込む。また、当期純利益は、株式市場低迷等のリスクを総合的に勘案し、2,200百万円と、前年同期並みを見込む。

2. セグメント別

(1) 製品事業部関連事業

売上高は、高強度せん断補強筋1275および高強度ばね鋼線(ITW)の販売が堅調に推移すると予想され、また、中国および米国の連結子会社の業績改善もあり、22,600百万円と前年同期比27.6%の増収、営業利益は、2,100百万円と前年同期比54.8%の増益を見込む。

(2) IH事業部関連事業

売上高は、建設機械部品関連における受注量の減少があるものの、熱処理受託加工における前年度並みの受注確保に加え、自動車部品・誘導加熱装置関連における販売増加により、23,230百万円と前年同期比12.2%の増収、営業利益は、2,120百万円と前年同期比37.8%の増益を見込む。

(3) その他

売上高は、前連結会計年度において、賃貸用オフィス1フロアを売却したことなどにより、170百万円と前年同期比9.1%の減収、営業利益は、80百万円と前年同期比42.4%の減益を見込む。

(単位:百万円)

事業区分	2011年 3月期	2012年 3月期 (予想)	増減	増減率 (%)	2011年 9月期
製品事業部 関連事業	17,710	22,600	4,890	27.6	11,082
IH事業部 関連事業	20,695	23,230	2,535	12.2	10,860
その他	187	170	△ 17	△ 9.1	84
合計	38,592	46,000	7,408	19.2	22,027

34

セグメント情報(連結営業利益予想)

(単位:百万円)

事業区分	2011年 3月期	2012年 3月期 (予想)	増減	増減率 (%)	2011年 9月期
製品事業部 関連事業	1,357	2,100	743	54.8	1,086
IH事業部 関連事業	1,538	2,120	582	37.8	1,073
その他	139	80	△ 59	△ 42.4	26
合計	3,035	4,300	1,265	41.7	2,186

35

連結設備投資額

(単位:百万円)

	2010年 3月期	2010年 9月期	2011年 3月期	2011年 9月期	2012年 3月期 (予想)
設備投資額	3,013	840	1,380	1,937	5,000
減価償却費	3,044	1,376	2,774	1,226	2,700

1. 激変する経営環境への適切かつスピーディーな対応

- (1) 受注量の確保とグローバル戦略の遂行
- (2) 収益力向上策(品質・コスト・生産性)の実施
- (3) 新商品・新技術の拡販

2. 資産・資本効率の向上(ROA・ROEの改善)

- (1) 資産(有価証券・棚卸資産等)圧縮策の実行
- (2) 資本政策(配当・自己株式取得等)の実行

3. 資産の有効活用

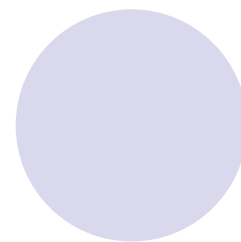
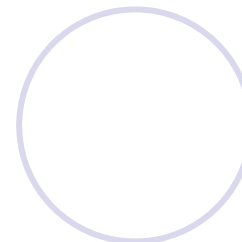
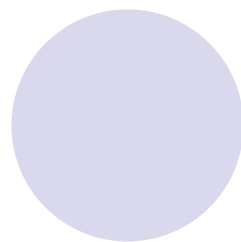
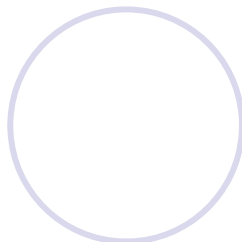
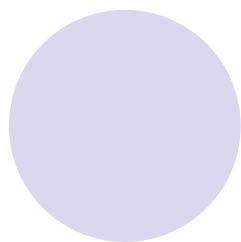
- (1) 選別的な設備・研究開発投資の実行
- (2) 内外投資の早期回収

4. 企業価値の向上(時価総額の増加)

- (1) 経営改革の遂行
- (2) ガバナンス・コンプライアンス・IRの強化
- (3) CSR経営の実践

5. 中期経営課題への取り組み

- (1) 第11次中期経営計画「革新への挑戦と飛躍・65」の仕上げ
- (2) 第12次中期経営計画の策定



ネツレン

高周波熱錬株式会社

(注)当資料に記載の将来に関する予想数値は、公表時点において入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により開示した予想数値と異なる場合があります。